

「まちかどミーティング(地域巡回)」概要 (鶴形地域センター)

日時・場所 平成 21 年 7 月 9 日(木) 午後 7 時 ~ 8 時 30 分 鶴形地域センター
市民参加者数 37 人
市側出席者 市長・企画部長・総合政策課長・地域情報課長・同課広報広聴係長・同係主査
財政課財政係長・市民保険課国民健康保険係長

市長市政報告 (19:00 ~ 19:35) ・「鶴形まちづくり協議会」への感謝
・市役所変革における「笑顔」と「あいさつ」・「感謝と思いやり」
・総合計画「“わ”のまち能代」の意義
・「リサイクルポート」と「県北エコタウン構想」
・「バイオマスタウン構想」と「農業政策」

市民との対話 (19:35 ~ 20:30) Q 「イワ出店」の話以降、私案だが、新庁舎を東中跡地に移転し、市の中心部も東部に移転したらどうか。現中心市街地(畠町等)は、商店街としての再生は困難で、むしろ、住宅街として整備すべきでは？

A 庁舎移転については、基金の積み立てはあるが、全くの新建築は、予算的に困難。現中心市街地は、イワ整備も終えており、市民にとって機能を残す方が便利。

ただし、旧来の商店街での再生は無理。現在「中心市街地活性化計画」で議論しているが、一案(私案)としては、エリアで目的を絞り(高齢者ゾーン・若者ゾーン・公園ゾーン等)、それぞれ規模を縮小し、核店舗を中心としたコンパクトな再生をめざしたらどうか。また、定住化促進のために住吉町市営住宅等公共施設を建設して、商店街機能を維持したい。

Q 「コンパクトな再生」という意味では、東京巢鴨の「とげ抜き地蔵商店街」が参考になるのでは？一度視察を。

A 何度かみているが、現地は、個店の品揃えと客本意の営業努力、そして行政との相互努力がうまくマッチしたケース。参考にしていきたい。

検討内容...畠町通りでは、商店者・地域住民一律となって再生を検討する取り組みが始まっている。市も検討に加わり中心市街地の活性化に取り組んでいく。

Q 「鶴形まちづくり協議会」は常時、道路周辺の草刈り等努力している。

「健康づくり」も重点目標にし、国交省の協力で米代川河川敷を整備し、また、川も地域財産として活用を図っている。その姿が子供達への見本として引き継がれていくと思っている。

鶴形には、「羽州街道」が通っており、そこからの白神山地の眺望は素晴らしく、市の観光資源になりうる。道路の拡幅整備を望みたい。

先日、NHK で東北地方の活性化をテーマに、北上工業高校の優れた技術を持った高校生と地元企業が密接に繋がり、地元に残る様子を描いた番組が放送された。当市でも、将来に向けて今から種まきをして行かなければならないのでは？

A 「羽州街道」については、地元の財産こそ地元で大事にすべきで、地道な活動の結果つながっていくと思う。

それから、その TV は見ていないが、例えば、当市でも「組子技術」等を能工生に教えているが、需要の面で厳しい。海外では評価されるので、市場開発等も含めて今後の課題で検討が必要。

検討内容...市道としての拡幅整備は、現状では難しい。

また、市には伝統的に優れた技術が残っており若い人たちに受け継いでもらえるような施策により力を入れていく。

Q おなごりフェスティバルも素晴らしいが、地元には郷土芸能等の伝統文化が多数伝承されている。全国に広める必要はなく、地域の結束を図る意味でも、畠町や二ツ井等で披露会をしたらどうか。

A そのとおり。地域でも核家族化が進み、世代間交流できにくい時代になった。こうした伝統芸能を伝承することで、世代間交流や、地域の繋がりも強くなる。「産業フェア」時に各郷土芸能団体に披露してもらいたい。

検討内容...現在「能代市民俗芸能連合会」加盟 19 団体で、能代・二ツ井それぞれの地区で合同発表会が開催されている。今後も継続するよう、「連合会」を支援していきたい(事業費補助)。

Q 河川敷の「ゲラウンドゴルフ場」の芝張りが経費面で進まない。まちづくり協議会でも年次計画はあるようだが、市からも援助してもらえないか。

・BDF については、地域でも廃油回収への協力が必要だが、当地では植物油製造のために「菜の花」を 2 町歩ほど作っている。八峰町や五城目のように、市でも、減対策のためにも、その拡大に力を入れてほしい。

A 芝については、他からも要請あるが、できるだけ環境の整備は必要と考えている。「鳥取方式」という張り方もあるようなので、検討したい。

高齢者の健康増進だが、現在、市内の公園について、地区のポイントごとに遊具等を整備する必要がある。その際に、高齢者の健康維持に有用なものの設置も検討している。

「菜の花」についても、BDF や減対策もだが、観光面でのアピールの案もあり、今後検討したい。

検討内容...「鳥取方式」での芝張りにしても、地域住民の協力が不可欠。鶴形地域まちづくり協議会と話し合いながら、協議会等補助金のなかで検討していく。

能代市ハイマスタク構想では「資源作物」の利活用として、不耕作地へなたね等を作付けし、農地の有効利用を図るとしているため、地域の要望には、関係各課と協議しながら、支援していきたい。また、減対策で、「菜の花」について、景観形成作物として団地化や集積化に取り組んだ場合、加算助成を行い支援している。

Q 要望だが、農家経営者の(市民税等)延納申請について、平成 23 年度廃止の旨を 3 月に通知されたが、米価下落の状況や、農業収入が秋の年一回という現状を見れば、各納期の支払いは慣れもないし、厳しい。少し期限を延ばしてほしい。

検討内容...本制度は、旧能代地域でのみ行われてきたもので、合併協議で「5 年間の猶予期間の後廃止する」としており、平成 23 年度から廃止する。

今後、各納期毎の納税が厳しい方々については、十分な納税相談を行い、実情にあわせた対応が可能となるよう取り組んでいく。

9 月議会一般質問答弁で、上記の内容を答弁している。